

第5回議会モニター会議 記録

日 時：令和元年 11 月 25 日（木）

午後 2 時～3 時 30 分

会 場：第 1 会議室、第 2 委員会室、501 会議室

（第 1 会議室、501 会議室は、グループ分け時のみ使用）

出席者：議会モニター 19 人（氏名略）、議会改革推進会議委員（氏名略）

事務局：5 人同席

議題

1. 本日の流れの説明

2. 市議会全般について、3 グループに分かれてのご意見聴取

（意見別紙）

3 本日のまとめ

（座長）

- ・今後、これまでいただいたご意見をさらに検証し、その中でも議会が一步でも進化できるよう対応案をまとめたいと思っています。まとめた内容は、議長へ報告しますが、もちろんモニターのみなさんにもお知らせします。
- ・来期も議会モニターに取り組む予定としているので、引続きご協力いただけると幸いです。

（議長）

- ・我々が気づけない意見をたくさん出していただきました。
- ・これからも議会モニター制度は続けていきます。ぜひ、次回も手を挙げてほしいと思っています。

いただいたご意見など

1. 本会議・委員会に関する意見

(本会議について)

- ・限られた時間内でやっているのので、質問も答弁も中途半端である。今回、傍聴し、そのように感じた。
- ・地域限定ではなく、上越市全体を考え、人口減少、企業誘致など上越市全体の問題を質問すべき。
- ・ある一般質問で地域の重要な課題が出たにもかかわらず、その地域の人の傍聴者がいなかった。その地区の人が、いつ、その課題についての一般質問をするのか知らないからではないか。
- ・議員のいない地区の質問がされていないのは課題。
- ・ある一般質問について、実情と違ったやり取りがあった。結局質問と答えのみで、その後どうなるのかが決まらない。
- ・一般質問だけでなく、総括質疑と討論も面白いのではないか。会派の考えを聞くのも面白いのではないか。
- ・一般質問について、1日に何人がやるかを決めてほしい。そうすれば何日の何時に誰が質問するかある程度分かるのではないか。

(委員会について)

- ・傍聴席ではやり取りが聞こえない。(行政側の声を通らない)
- ・行政の答弁がうやむやで、議員も引き下がって終わってしまう。しっかり時間をかけ充実を。
- ・委員会室が狭く、傍聴スペースが狭い。
- ・委員会の日数が少ない。1週間やるくらいでないと。もう少し細分化した方がよりよい議論ができるのではないか。
- ・限られた時間内でやっているのので、質問も答弁も中途半端である。今回、傍聴し、そのように感じた。

(本会議・委員会の中継について)

- ・本会議や委員会は、ネットで録画中継を閲覧できるが、時間がある人しか見ることができない。
- ・費用面の問題はあるだろうが、委員会中継も本会議のように質問者と答弁者の切替えが出来ると良い。
- ・委員会中継も本会議中継同様、JCVでできないか。

(傍聴について)

- ・傍聴者の人数を増やすためには、各区の防災行政無線等を活用し、本会議と委員会の開催を周知してはどうか。周知が足りないのでは。
- ・傍聴者の人数を増やすためには、議員から後援者や知り合いにアプローチしたほうがよい。一般質問の頻度も増えるのではないか。
- ・一般質問内容が事前に分かれば、興味のある質問内容の傍聴に来るかもしれない。質問内容に関心があるからこそ来るもの。
- ・傍聴できることを知っている人自体が少ない。どこに行って、どうすればいいといった案内を広める。
- ・委員会の時は細かい資料が傍聴席にあったが、一般質問の時は手元になく、議員が出しているパネルも見えない。
- ・本会議の時にフリーで撮影できるよう環境を整えてほしい。手続きが必要なら、簡単な手続きにしてほしい。
- ・10年以上前に、傍聴に行こう！ツアーがあり、行ってみた。それで、その頃は関心を持った（最近は関心が薄れたが）。こうした傍聴に来てもらう仕掛けもあるのでは。
- ・より多くの市民が傍聴するには、休日・夜間に開催してみてもいい。
- ・本会議場や委員会室での傍聴という考えに捉われず、市民ロビーなどで流し多くの人に見てもらおう。とはいえ、現在の固定カメラの画面では関心UPは期待できない。
- ・開催日時、質問者、内容を周知する。議員自ら地域の老若男女に声掛け、招待する。そして、傍聴者の感想を議会だよりに掲載し、関心度を高める。
- ・傍聴した市民がよかったと周囲に語ることで、新たな傍聴者が期待できる。市民への意識改革とともに議会改革も不可欠。
- ・投票率が低く、市民が政治に関心がない時点で、傍聴者を増やすのは難しいと思う。議会への関心を高めるためにも、まずは投票率を上げるべきである。例えば、ショッピングセンター等に投票所を設けて、そこで投票するとポイントが還元されるといったような制度を設けてはどうか。期日前投票イコール投票率が上がるとは思っていない。もう少し投票率を上げる検討をする必要がある。
- ・定例会において、予算や決算など、目玉の議案があれば、それを地元紙等に掲載してはどうか。そうすれば、傍聴してみようかな、と思ってくれる人もいるのでは。ただ、これも特効薬にはならないと思っている。
- ・1か月前くらいには議会日程をわかるようにしてほしい。来庁者向けに、1か月前から市役所に掲示するのもよいのではないか。
- ・議会日程をペーパーでお知らせをするだけでは足りない。
- ・いつの委員会で何を審議するのかが分かるように、ホームページで検索できればよい。

2. 議会報に関する意見

- ・今まで全然関心なく、かけはしも読んだことがなかった。
- ・一般質問のページは、読者が興味を持てる、とっつきやすい見出しが必要。それこそ、週刊誌的な見出しでもよい。

3. 議会の見える化・活性化に関する意見

(議会モニター制度について)

- ・モニターになって議会の活動をいろいろ知ることができた。こうした機会を増やしてもらいたい。
- ・周りに人にも、モニターのことを伝えたい。
- ・議会モニターを毎年継続すれば、市民に少しでも知ってもらえる。若い人からも。モニターは長期的な視野で。
- ・今回のような区単位のモニターはもう少し継続すべきであり、12月定例会も聞いてみたいので、年間を通してやってみてはどうか。
- ・議会モニターの取組は良いが、町内会長協議会経由で依頼すると、何らかの役職のある人がモニターになってしまう。幅広く募集してはどうか。
- ・議会モニターはやってよかったとは思いますが、誰にお願いするかについては、難しい。自分から手を挙げる人は少ないのではないか。
- ・議員のいない地区であり、選挙でも誰に入れればいいのかわからない状況だったが、モニターをやって、議会について友達に説明する機会もあったので有効であった。
- ・市のホームページも見ないし、地区内に議員もいないが、勉強になった。別の方にも議会モニターを経験してほしい。

(議会の見える化について)

- ・上越タイムス等でも議会の活動が掲載されており、モニター制度を開始し意見を収集しようとしていること、情報発信しようと頑張っていることが分かった。
- ・例えば、上越タイムスなど、週1回、必ずニュースとして取り上げてもらう。とにかく発信していく。議会全体として、うまくマスコミを使う。普段の活動内容を多く書いてもらう。議会活動を定期的に多く広報する仕組みが必要。
- ・先日、新聞で上越食料農業農村議員連盟の視察の記事を見た。こうした活動が市民に伝わるように、積極的にメディアの活用を。また、自らも、その結果、こういうことを考えていくなどと発信していく。それが、議員は頑張っているなと思われ、期待感につながる。
- ・議会の活性化に向け、地道に情報発信していくしかない。
- ・模擬議会を新聞で見た。子ども達から政治に興味を持ってもらうための良い取組だと思う。中学生は、3年後には選挙権を得るため、今後に期待したい。

- ・吉川中の模擬議会を見た。このように、子どもの時から議会に触れる教育が必要。小中の教育から、大事さ、身近さを伝える。長期的なスパンが必要。
- ・模擬議会は、とても良い取組だと思う。
- ・普通の人には市役所に来ることはないので、模擬議会や議会モニターはとても良いと思う。子どもへの声かけや、議員の皆さんから声かけするのがよい。
- ・議会報告会について、町内会長や地域協議会の人ばかりで一般の人がいない。これを増やすことから始まるのではないか。
- ・アンケートの回収率の低さが市議会や議員に対する意識の低さを表しているのではないか。議会の見える化の前に市民の意識改善が必要であり、議員の日頃の活動を皆さんに伝えることが必要。
- ・議員だけの責任ではなく、市民も自ら選んだという責任はあるが、それを市民に求めるのは無理なので、議員の日頃の活動の周知が必要。
- ・傍聴者や傍聴の機会を増やすためのアイデア、議会の見える化へのアイデアを考えたが、特効薬は無いのではないかと、思っている。
- ・関心のない人には何をしても厳しいとは思う。特効薬はない。
- ・議員は何をしているかわからない。

4. 議会・議員の活動に関する意見

(議会の活動について)

- ・例えば、県の借金問題は議会の責任もあると思う。これでは、議員はいてもいなくても同じと一般の人はそう見る。市民の代表の議員が行政の暴走をとめるのが、メインの役割であり、市民に迷惑がかからないようにチェックを。
- ・最近行政からは決まったものが下りてくる。決まったものは意見が通らないし、審議もできない。議会がしっかりしてほしい。議会は、行政の追認をするだけでなくしっかりチェックを。
- ・令和2年度当初に見直される総合事務所の時間外受付について、当直が配置されなくなる総合事務所もある。火災や停電の発生、クマの目撃等については、時間外受付を開設する総合事務所から無線で放送するようなシステムを議会から要望してほしい。また、住民への周知をより丁寧に行ってほしい。
- ・上越市には、病院、学校、保育園、交通など多くの課題がある。こうした課題に市議会がどうしているのかが見えてこない。
- ・関心の高い内容を議論するときは、地域へ赴き多数の市民が傍聴できる施設を使い、委員会を開催してほしい。
- ・市民と一緒に考える政策懇談を通して活動の見える化を図れないか。委員会は地域へ説明・意見聴衆に出向くことが必要。
- ・先日の災害現場視察の際、地元には市議会視察のことは伝わっていなかった。せつか

く来るのだから、担当部署だけでなく、地域の声や要望を聴くべき。

(議員の活動について)

- ・議員は一生懸命やっていると思う。
- ・議員からは、人口減少問題に対する危機感が伝わってこない。
- ・地方は人がいなくなっており、サービスが無くなるのはしかたない面もある。市民にどう理解してもらえるか。議員はその説明も仕事ではないか。しっかりやってもらいたい。
- ・結婚しない若者が増えている。行政も議員も、婚活支援に取り組んでほしい。
- ・進学のための転出した学生等は、働く場所が無いと地元に戻ってこない。議員から、もっと働く場所が増えるよう誘致するための取組を考えてもらいたい。
- ・議員から地域活性化に関する政策を提案するため、もっと行政側と突っ込んだやり取りをしてほしい。
- ・農業や福祉など分野ごとに精通したエキスパート議員を作ってはどうか。
- ・議員の政策提言能力を高めてほしい。
- ・地域の特性だけでなく、市全体のビジョンを感じられるように活動してほしい。
- ・牧区には市議がない。議員から中山間地へ足を運んでもらい、現状を見て、声を聞いてほしい。
- ・積極的に地域に足を運び、市民と対話を交わし、意見を吸い上げることが出来る議員であるべきだと思う。
- ・自分の地域のことだけではなく、広い視野で活動してもらいたい。
- ・今以上に、市民生活によって重要な情報や政策を分かりやすく説明する工夫と努力を進めてもらいたい。
- ・視察先として提案。外国労働者が多い地域にいき、どのように生活させているか。
- ・視察して終わりではなく、政策提言につなげてほしい。

5. その他の意見

- ・名立区では、防災行政無線の放送は、朝から晩までクマやイノシシの目撃放送ばかりで、市全体に関する放送が少ない。
- ・牧区では、人口減少と少子高齢化が進んでいる。昔、役場で担っていた地域の活性化をもっと市（総合事務所）でリードしてほしい。
- ・具体的な政策が見えない。
- ・労働者として外国人を連れてくる。そして、その人たちをどう生活させるか。
- ・どのように観光客を呼ぶか。キューピッドに外国人呼ぶとかもどうか。
- ・とにかく、いろいろなお金を引っ張ってきてくれればよい。
- ・昔住んでいた空き家を所有していたが、数年前に取り壊した。取壊し後、固定資産税が高

額になり、空き家にしておいた方が良くらいだ、と感じた。空き家対策を考えた時、施策的にどう思うか。

- 鳥獣による被害は、中山間地全体の問題であり、対策に努力してほしい。
- イノシシやサギによる鳥獣被害対策として、補助金をもらって電気柵を設置した。ぜひ、今後も継続していただきたい。

(地域協議会について)

- 地域支援事業、直江津地区は1次では余り、2次では、このテーマは？というのがあがってきた。余らせた方がよいのでは？のレベルである。
- 公募では手をあげる人はなく、地域のそれなりの発言力の人ばかりで、一般がいない。はたして公募がいいのか？市から指名制でどうか？そうすれば、政治に対する関心アップにつながる。何かを経験するのはよいことである。このモニターも。
- 地域協議会を活かしていくには、運用を見直すべきである。
- 地域支援事業の審査において、町内の祭りとかには使わず、施設の老朽化など地区全体のものなど、その地域でどうやって生かすかとの扱いとした。結果300万円活用しなかった。